

久留米市社会福祉協議会

「三潞校区」の 取り組み

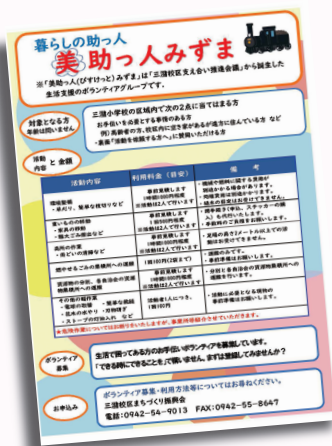


「美助っ人（びすけっと）みずま」誕生

支え合い推進会議の取り組みを紹介していくシリーズ第8弾。今回は「三瀬校区」をご紹介します。

三瀬校区まちづくり振興会
会長 古賀 文雄こが ふみおさん

三瀬校区社会福祉協議会
会長 吉武 富男よしたけ とみおさん



立ち上げました。その名も「美助っ人（びすけっ）みずま」。「草刈りなどを、通して、三潞校区が美しくなるように、助っ人に「美」という文字をつけました。バスケットという響きが可愛く、親しみやすいネーミングは、評判がいいですよ」と古賀さんは笑顔で話します。

美助っ人みずまでは、1年間で約45件の困りごとに対応してきました。

困りごとの8割が草刈り。あと、美助っ人みずまメンバーには職人さんもあるのです。包丁・ハサミとぎの依頼も多いです」と吉武さんは話します。

美助っ人(びすけっと)
みずま「公式LINE」

困りごとの依頼があったら、事務局や会長から、対応できそうな美助つみずまのメンバーに直接、個別にお願いしていました。しかし、草刈りや包丁とぎなど、対応できる人が限られている依頼内容が多いこと、個別に連絡して依頼を割り振るのが大変なことから、活動する人が2〜3人に偏ってしまう現状がありました。

そこで、もっとスムーズな方法がないかと会議で話し合い、公式LINEを活用するアイデアが生まれました。

公式LINEアカウントを作成することで、そのアカウントに登録してくれた人に一斉に情報を発信することができずす。また、公式LINEに返信した人とだけやりとりができ、個人情報が見えることはありません。

その機能を活用して、

①「こんな依頼がきました」という
メッセージを事務局から「斉送信

②活動できる人が返信

③ 依頼者の情報など活動に必要な情報を、活動する人にのみ送信

というマッチング方法をとることにしました。令和4年7月の支え合い推進会議で、公式LINEに登録、そしてLINEの勉強会も行いました。

公式LINEを活用したことで、「メンバー全員で一緒にやっているという、団結力が生まれました！どんな内容の依頼がどの程度くるのか、メンバー全員が把握できるようにしたのも良かった」と古賀さん。「若い世代へのPRにもなったようで、LINEを活用したことで、新たに若いメンバーが4名も参加してくれたんですよ」と吉武さんは話します。



LINE勉強会の様子

活動をして思うこと これからのこと

● 古賀さん

「一番は周知の難しさを感じています。広報紙に困りごと募集の告知をしています。実際は口コミで伝わる人が多いです。それでも何ごとも続けることが大事だと考えます。様々な形で活動をPRし続けることで、必ずどこか

にヒットして知ってもらえるはずです。そして、自治会の困りごとは自治会で解決するのが理想です。自治会だけでできないこと、その隙間を、支え合い推進会議で補っていかれたらいいと思っています。そのためにも、各自治会の足並みが揃うように努めていきたいですね。最終的には、個人の困りごとは、わざわざ校区や自治会を通さずとも、身近な人同士が助け合うような地域になってほしいです。

● 吉武さん

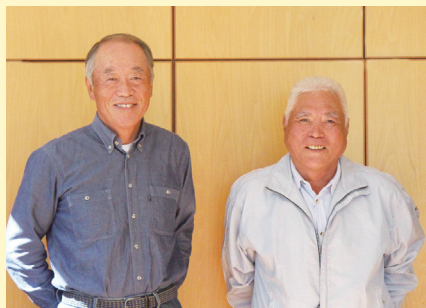
後継者不足問題があります。今、困りごとの依頼で一番多いのが草刈りですが、草刈り機を使える人もいなくなってしまうのではと不安です。そのためにも若い人にもっとメンバーになってほしいです。最近、草刈り機など機械工具の貸し出しも始めました。貸し出しの時間や料金などを、今後きっちりシステム化して活用していきたいです。

今、民生委員として、月1回の子育てサロンや月2回の土曜塾（小学校）に顔を出したり、見守り活動を行ったりしています。そこで若い世代の方や子どもたちに声をかけたり、採れた野菜を配ったり、積極的にコミュニケーションをとっています。



取材を終えて

「今は、道端で子どもたちに気軽に声をかけると怪しまれる時代ですよ」と笑い話のようにお話しされながらも、若い世代・子どもたちとも積極的に交流を図っておられます。公式LINEを活用する一方で、「野菜配りがコミュニケーションのツール」と話されるように、デジタル・アナログ両方の動きを取り入れた活動をされている三潋校区。「幅広い活動やPRをして選択肢を増やせば、多くの人に拡がります。どこかにひっかかってくれるはず。SNSも口コミも大事」と話す古賀さんの言葉が、三潋校区の活動全てに根付いているように感じました。



古賀 文雄さん

吉武 富男さん

古賀さんは、学生の頃から続けている剣道が生活の基盤。有段者で、今も週に2～3日、稽古をしているそうです。道場で地元の中学生たちに指導しています。吉武さんは家庭菜園が趣味で、できた野菜は自分で食べるより、周りに配ってまわっているそうです。あとお酒も大好き。「三潋はお酒が美味い！いいところです（笑）」と話されます。

- 地域の困りごとに対応する「美助っ人みずま」結成。
- 美助っ人みずまは、公式LINEを使って活動をマッチングし、調整がスムーズにできるようになった。
- 多くの人に拡がるよう、周知方法の選択肢を増やしている。

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34

TEL: 0942-34-3035

FAX: 0942-34-3090

メール: heartful@heartful-volunteer.net

HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

久留米市社会福祉協議会 検索

webサイト

[note一つくる、つながる、とどける。]で「つながるスイッチ!!」を検索してください!



つながるスイッチ!!はHPでもwebマガジンでも掲載中